

## 定期報告(ウルグアイ内政・外交:2020年9月)

### 1 ポイント

#### 【内政】

- 27日、統一地方選挙が実施された。全19県の県知事職のうち、野党拡大戦線(FA)はモンテビデオ県、カネロネス県、サルト県の3県、コロラド党はリベラ県で勝利し、残りの13県では国民党が勝利した。モンテビデオ県知事選では、FAが52%、連立与党統一候補のラッフォ候補が40%を得票し、FAのコッセ候補が21%の得票率で当選した。
- 2日、政府は塩、砂糖、脂肪等を過剰に含む食品表示の義務化を再度延期する政令を发出。
- 17日、政府が議会に提出した予算案に反対して、全国労働総同盟(PIT-CNT)の呼びかけにより同政権発足後初のゼネストを実施。
- 30日、マニーニ上院議員の免責特権停止に関する決議が上院議会で行われ、否決。
- 3日、中央教育審議会(CODICEN)は、社会的距離の維持等を条件に7日から幼稚園及び小学校で4時間以上の授業を可能とする旨発表。22日には10月1日から学校給食の段階的な再開を決定。
- 9日から20日まで、国内最大の農牧展示会「プラド博」を実施。
- 25日、性の多様性の尊重を訴える「多様性の行進」を実施。

#### 【外交】

- 2日、政府はAlvaro Moerzingerラカジェ・ポウ大統領顧問を次期ウルグアイ国連常駐代表に任命することを決定。
- 3日、ペニャ・ラバジェハ県知事は、ラバジェハ県と中国四川省の姉妹協定に調印。
- 9日、ラカジェ・ポウ大統領は習近平国家主席と電話会談を実施。
- 12日、アルベレチェ経済財務大臣は米州開発銀行(IDB)次期総裁選挙のためオンラインによる総務会臨時会合に出席。
- 14日、国連経済社会理事会において、イスラエルによる「パレスチナ国民に対する人権の組織的な侵害及び女性や少女への影響」を非難する決議で、ウルグアイは賛成票を投票。右投票態度は「誤り」であったとし、28日、ブスティージョ外務大臣はサデル外務省政務総局長の解任に署名し、フェルナンド・ロペス官房長を臨時政務総局長に任命。
- 17日、元外務大臣であるアブレウ上院議員(国民党)がラテンアメリカ統合連合(ALADI)事務総長に選出され、22日のALADI代表委員会で事務総長に就任。
- 22日、ラカジェ・ポウ大統領の第75回国連総会一般討論演説(ビデオで実施)。

### 2 本文

#### 【内政】

##### 1 統一地方選挙

27日、統一地方選挙が実施された。有権者数は2,694,370人で、投票率は86.03%であった。全19県の県知事職のうち、野党拡大戦線(FA)はモンテビデオ県、カネロネス県、サルト県の3県、コロラド党はリベラ県で勝利し、残りの13県では国民党が勝利した。モンテビデオ県知事選では、FAが52%、連立与党統一候補のラッフォ候補が40%を得票し、FAのコッセ候補がビジャール候補及びマルティネス候補を抑え21%の得票率で当選した。選挙裁判所発表の開票最終結果概要は次のとおり。

##### (1) 県知事選挙結果(全19県)※は政党交代があった県

県名	当選政党: 当選候補	改選前
アルティガス県	国民党: パブロ・カラム候補(再選)	国民党

カネロネス県	FA: ヤマンドウ・オルシ候補(再選)	FA
セロ・ラルゴ県	国民党: ホセ・シュラメンディ候補	国民党
コロニア県	国民党: カルロス・モレイラ候補(再選)	国民党
ドウラスノ県	国民党: カルメロ・ビダリン候補(再選)	国民党
フロレス県	国民党: フェルナンド・エチェベリア候補(再選)	国民党
フロリダ県	国民党: ギジェルモ・ロペス候補	国民党
ラバジェハ県	国民党: マリオ・ガルシア候補	国民党
マルドナド県	国民党: エンリケ・アンティア候補(再選)	国民党
モンテビデオ県	FA: カロリーナ・コッセ候補	FA
パイサンドウ県 ※	国民党: ニコラス・オリベラ候補	FA
リオ・ネグロ県 ※	国民党: オマール・ラフルフ候補	FA
リベラ県	コロラド党: リチャール・サンダル候補	コロラド党
ロチャ県 ※	国民党: アレホ・ウンピエレス候補	FA
サルト県	FA: アンドレス・リマ候補(再選)	FA
サン・ホセ県	国民党: アナ・ベンタベリ候補	国民党
ソリアノ県	国民党: ギジェルモ・ベソツシ候補	国民党
タクアレンボ県	国民党: ウィルソン・エスケラ候補	国民党
トレインタ・イトレス県	国民党: マリオ・シルベラ候補	国民党

(2) 全19県党配分

	選挙結果	改選前
FA:	3県	6県
国民党:	15県	12県
コロラド党:	1県	1県

(3) モンテビデオ県知事選挙における政党・候補者別得票数及び得票率

<u>拡大戦線(FA)</u>	計 456,695票(得票率52.06%)
ダニエル・マルティネス候補	105,050票(得票率11.97%)
カロリーナ・コッセ候補	184,364票(得票率21.01%)
アルバロ・ビジャーラ候補	162,657票(得票率18.54%)
政党票	4,624票(得票率0.53%)
<u>独立党(連立与党統一候補)</u>	計 351,207票(得票率40.03%)
ラウラ・ラッフォ候補	351,207票(得票率40.03%)
<u>人民議会(Asamblea Popular)</u>	計 3,765票(得票率0.43%)
エドゥアルド・ルビオ候補	3,765票(得票率0.43%)
<u>環境・動物愛護党(Verde Animalista)</u>	計 3,529票(得票率0.40%)
レオネル・ガルシア候補	3,529票(得票率0.40%)
<u>白票及び無効票</u>	計 62,131票(得票率7.08%)
白票	19,904票(得票率2.27%)
無効票	22,961票(得票率2.62%)
無効観察票	122票(得票率0.01%)
一部白票	19,144票(得票率2.18%)

投票数	計877,327票
有権者数	計1,041,475人
投票率	84.24%

(4) 全19県における各党得票数合計及び得票率

拡大戦線(FA):	931,625票(得票率40.19%)
国民党:	642,419票(得票率27.71%)
コロラド党:	129,958票(得票率 5.61%)
カビルド・アビエルト党:	31,296票(得票率 1.35%)
独立党:	352,191票(得票率15.19%)
※モンテビデオ県での連立与党統一候補への票を含む	
急進エコロジスト党(PERI):	1,730票(得票率 0.07%)
人民議会:	7,694票(得票率 0.33%)
環境・動物愛護党:	5,517票(得票率 0.24%)
白票:	69,375票(得票率 2.99%)
無効票:	57,695票(得票率 2.49%)
無効観察票:	447票(得票率 0.02%)
一部白票:	88,028票(得票率 3.80%)
投票数合計:	2,317,975票
有権者数:	2,694,370人
投票率:	86.03%

(5) 全125市長選党配分

拡大戦線(FA):	32
国民党:	90
コロラド党:	3

2 モンテビデオ県知事選挙世論調査

27日の統一地方選挙前にFactum社及びEquipos社が実施したモンテビデオ県知事選挙の投票動向調査結果は次のとおり。

(1) Factum社(6日～12日実施、15日発表)

- ア 拡大戦線(FA): 計54%(内訳はカロリーナ・コッセ候補20%、アルバロ・ビジャーレ候補17%、ダニエル・マルティネス候補13%、FAの誰か3%)
- イ 独立党(連立与党): 37%
- ウ 人民議会: 0.5%
- エ 環境・動物愛護党: 2%
- オ 白票・無効票: 2.5%
- カ 分からない: 4%

(2) Equipos社(17日～20日実施、23日発表)

- ア 拡大戦線(FA): 計54%(内訳はカロリーナ・コッセ候補21%、アルバロ・ビジャーレ候補17%、ダニエル・マルティネス候補10%、FAの誰か2%)
- イ 独立党(連立与党): 40%
- ウ その他政党: 2%
- エ 白票・無効票: 4%

### 3 塩、砂糖、脂肪等を過剰に含む食品表示義務化の再延期

2日、政府は塩、砂糖、脂肪等を過剰に含む食品表示の義務化を再度延期する政令を発出した。政府による監督は2021年2月1日から行われる。同表示義務化はバスケス前政権により2018年8月の政令で定められ、18ヶ月の適応期間が設けられており2020年3月に発効予定であったが、ラカジェ・ポウ政権の発足直後に既に120日間延期されていた。今次政令では含有量の判断基準を変更した他、検討されていた表示ラベルの「過剰(exceso)」から「高(alto)」への変更については最終的に適用されなかった。

### 4 ラカジェ・ポウ政権発足後初のゼネスト

17日、政府が議会に提出した予算案に反対して、全国労働総同盟(PIT-CNT)の呼びかけにより同政権発足後初のゼネストが実施された。

### 5 マニーニ・リオス上院議員の免責特権停止に関する決議の否決

30日、カビルド・アビエルト党党首のマニーニ・リオス上院議員の免責特権停止に関する決議が上院議会で行われ、賛成票15票に対し反対票16票で否決された。野党拡大戦線(FA)及びコロラド党シウダダノス派が賛成票を投じたが、国民党、コロラド党バジェ派、カビルド・アビエルト党議員が反対票を投じた。同議員は軍司令官時代に軍の犯罪に関する報告義務を怠った疑いが持たれており、出廷を可能にするため免責特権の停止が要求されていた。右決議により、司法当局は同議員を訴追できなくなった。

### 7 学校授業に対する衛生規定の緩和

#### (1) 学校授業時間の延長

3日、中央教育審議会(CODICEN)は、社会的距離の維持等を条件に7日から幼稚園及び小学校で4時間以上の授業を可能とする旨発表した。

#### (2) 学校給食の再開

22日、中央教育審議会(CODICEN)は3月13日の国家緊急事態宣言から停止していた学校給食の再開を決定した。10月1日から段階的に再開され、学校での授業の有無に関わらず全ての児童が食事を摂ることができるが、社会的距離の維持のため配席には考慮が必要。

### 8 農牧展示会「プラド博」

9日から20日まで、国内最大の農牧展示会「プラド博」が実施された。厳格な衛生プロトコルに基づき、入場規制(一度に入場可能な人数は1万5千人)、入口での検温、手のアルコール消毒実施、マスク着用、スタンド間の2メートル以上の社会的距離の維持が義務付けられた。

### 9 多様性の行進

25日、性の多様性の尊重を訴える「多様性の行進」が実施された。本年は7月18日通りではなく、リベルター広場から国会議事堂に向け5月1日広場までの区間で行われた。同大規模イベントに際し、新型コロナウイルス感染症対策のため社会的距離の維持とマスク着用等の衛生規定の順守が呼びかけられていたが、一部の参加者は同規定を順守していなかった。サリーナス厚生大臣は、同イベント後2週間の社会的距離の維持及びマスク着用の徹底を要請した。

## 【外交】

## 1 次期ウルグアイ国連常駐代表の任命

2日、政府はAlvaro Moerzinger大統領顧問を次期ウルグアイ国連常駐代表に任命することを決定した。同顧問は元外交官で既に定年退職しているため政治任用である。世界保健機関(WHO)、国際労働機関(ILO)及び国連人権理事会での代表も兼任する。

## 2 ラバジェハ県と中国四川省の姉妹協定調印

3日、ペニャ・ラバジェハ県知事は、ブスティージョ外務大臣及び王剛在ウルグアイ中国大使同席のもと、ラバジェハ県と中国四川省の姉妹協定に調印した。ペニャ・ラバジェハ県知事は、四川省との関係は食肉やソルガムの販売からスポーツ、社会、文化関係に至るまで様々な交流を可能にしており、関係を継続し深めるため同協定調印が不可欠であったと説明した。また、同調印式は四川省で実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により計画が変更され、まず四川省で署名後、ラバジェハ県知事による署名のためウルグアイに送付されたと述べた。

## 3 大使館の一時閉鎖

7日、下院財政委員会に出席したブスティージョ外務大臣は、財政削減によりポーランド、アンゴラ、ニカラグアの大使館及びブラジルの4領事館(バイーア、バジェ、ペロタス及びクリチバ)、アルゼンチンのパラナ領事館、米国のロサンゼルス領事館の3大使館6領事館を一時的に閉鎖する旨明らかにした。

## 4 ウルグアイ・中国首脳電話会談

9日、ラカジェ・ポウ大統領は習近平中国国家主席と35分に及ぶ電話会談を実施し、貿易や新型コロナウイルスのワクチンについて議論した旨ツイッターで発表した。同日、ブスティージョ外務大臣は記者会見を行い、ウルグアイの輸出の30%を占める中国との同会談実施は極めて重要であるとし、両首脳は貿易面、特に良質の商品に焦点を当てた二国間関係強化の必要性で一致したと述べた。また、今次会談にて習近平中国国家主席がラカジェ・ポウ大統領に訪中を要請したが時期については未定である旨明らかにした。

## 5 IDB総裁選出席

12日、アルベレチェ経済財務大臣は米州開発銀行(IDB)次期総裁選挙のためオンラインによる総務会臨時会合に出席した。同会合で米国のマウリシオ・クレバーキャロン候補がIDB次期総裁に選出された。任期は5年で、10月1日に就任する。同候補は米国の他、エルサルバドル、ガイアナ、ハイチ、イスラエル及びパラグアイによって推薦され、ウルグアイ、コロンビア、ブラジル、ボリビアの支持を得て、米州の加盟国票28票中23票を獲得して当選した。同候補は唯一の候補者であり、中南米出身者を同機関のトップに置くという60年間続いた不文律が破られたため論争を引き起こした。アルゼンチン、チリ、コスタリカ、メキシコが反発。ウルグアイ国内でも論争を引き起こし、ラカジェ・ポウ大統領は同米国人候補への支持を決めるも、サンギネッティ元大統領は右を拒絶、タルビ前外務大臣も右を支持しなかった。

## 6 パレスチナ国民の人権に関する国連決議及びサデル政務総局長の解任

14日、国連経済社会理事会において、イスラエルによる「パレスチナ国民に対する人権の組織的な侵害及び女性や少女への影響」を非難する決議で、ウルグアイは54の理事会加盟国のうち42ヶ国とともに賛成票を投じた。3ヶ国(米国、カナダ、オーストラリア)のみが反対票を投じ、8ヶ国(独、伯、オランダ、ジャマイカ、モンテネグロ、スイス、トーゴ、ウクライナ)が棄権した。

27日、ブスティージョ外務大臣はコロラド党党首であるサンギネッティ元大統領と同元大統

領宅で会合し、政府を代表して、国連でのイスラエルに反するウルグアイの投票は「諸事情による誤り(error circunstancial)」であり、イスラエルの権利を支持する歴史的な外交方針を維持する旨を認めた。

28日、ブスティージョ外務大臣はサデル外務省政務総局長を解任し、フェルナンド・ロペス官房長を臨時政務総局長に任命した。

#### 7 アブレウ上院議員のラテンアメリカ統合連合(ALADI)事務総長選出

17日、元外務大臣であるセルヒオ・アブレウ上院議員(国民党)が2020年～2023年の任期でラテンアメリカ統合連合(ALADI)事務総長に選出され、22日にALADI代表委員会の場で事務総長に就任した。

#### 8 第75回国連総会におけるラカジェ・ポウ大統領の演説

22日、ラカジェ・ポウ大統領は第75回国連総会一般討論演説(ビデオで実施)を行った。同大統領は、ウルグアイは常に多国間主義を支持し、国際活動のあらゆる枠組みで解決策の模索を支持すると述べた。また、ウルグアイの新型コロナウイルス感染症対策を振り返り、協力とデジタルセキュリティ、人権問題、国際刑事裁判所の役割に対する支持を再度表明した。

#### 【要人往来】

○往訪

●なし

○来訪

●なし